

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第2回 保健・福祉部会	
日時	平成22年10月21日（木）午後1時から午後3時	
会場	長野市役所第二庁舎10階会議室18	
出席者	作業部会員 （敬称略）	小山順子、三浦靖雄、芝波田利直、滝澤譽子、竹元忠造、谷憲昭 原田誠龍、渡辺徹
	関係課員	財政課、市民課、医療事業課、国民健康保険課、男女共同参画推進課、厚生課、高齢者福祉課、介護保険課、障害福祉課、保育家庭支援課、人権同和政策課、保健所総務課、健康課、生活衛生課、環境衛生試験所、産業政策課、学校教育課、生涯学習課、企画課（事務局）

I 会議次第

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 部会長・副部会長の選出
- 4 部会長・副部会長あいさつ
- 5 会 議
 - (1) 第四次長野市総合計画 前期基本計画の現況と課題
（部会に係る施策の現況と課題について説明）
 - (2) 保健・福祉分野の質問等について
 - (3) ワークショップについて
- 6 ワークショップ
 - (1) ワークショップのガイドライン
 - (2) グループ討議の進め方
 - (3) ワークショップ
テーマ：政策1-2 生きがいのある豊かな高齢社会の形成
- 7 そ の 他
 - (1) 今後の予定について
 - (2) 事前課題シート（宿題）について
- 8 閉 会

II 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 部会長・副部会長の選出
部会長は立浪澄子部会員、副部会長は小山順子部会員
- 5 会 議
 - (2) 保健・福祉分野の質疑及び意見交換等について
質問・意見は無く、必要に応じてワークショップの中で意見交換することとした。
- 6 ワークショップ
テーマ 政策1-2 生きがいのある豊かな高齢社会の形成
2グループに分かれ、ワークショップを行った結果、別紙のとおり発表があった。

金と人

高齢者社会を迎え、医師不足、特養不足等を聞くとこれから先が不安になる。

在宅介護に対する援助が少ない様に思える。

特養・養護老人ホームの増設。公費負担率の底上げ。

医療、介護等の自己負担の増加

社会保障費の財源確保

介護事業従事者の人材不足。

介護サービス従事者の給与が安い

介護職はハードだが「ありがとう」と感謝されるとうれしい

分からない

介護サービス自体が難しくよくわからない。

どこに相談したらいいかわからない

ケアマネージャーがしっかりしていないと良いサービスが使えない

元気な年寄り

高齢者が働ける場が少ない(働くことで介護予防、認知症予防につながるのでは)

元気な高齢者が多い中で、高齢者の活躍できる場所が少ない

官公庁が率先して65歳定年制にすることで社会全体が65歳定年になるようにしていく。

平均寿命が高い。

高齢者が元気である

定年後も、農業などに従事出来る機会がある

高齢者の方々が、自立心を持って活躍出来る場や機会が少ない

会社・自治体等の定年を伸ばす

地域と世代の交流

高齢者を対象とした教室やイベントが増えてきた。

地域によって温度差はあるが、民生委員の方が良く世話をしてくれる。

文化が・歴史が若い世代に伝わっていかない

世代間交流が少ない

高齢者が、幼児教育・学校教育・地域教育・子育てなどに、参加して貢献できる機会をつくる

支援を必要とする人に対する福祉活動

地域全体で、高齢者が孤立しないような働きかけをしていく

老人と幼児のふれあいの場の減少

教育県信州を取り戻して欲しい

老人の活動の場が多いと考えられ幸せそうだが

地域の結びつきが弱くなっている

施設

養護老人ホームの待機者に比べ、特養の待機者が圧倒的に多い。

老人福祉施設が少ない。

施設入所待機者の減少

老人ホームを終の棲家とするならば今住んでいる家は無駄になる

⇒デイサービスのメニューを変える(一律は止める)

移動手段

道路の問題

公共交通機関が不便

中山間地の地域独自の事業として高齢者に100円バスの運行は良いサービスである。

おでかけパスポートをいつまでやるのか？方法はこれで良いのか？

⇒意見の強い方と弱い方が極端な感じがする

⇒高齢者の中で、生活を豊かに送れている人とそうでない人の格差がある

Bグループ

政策1-2 生きがいのある豊かな高齢社会の形成

地域が薄い

老人クラブは「老人福祉法」による法的な位置付けがあり公的補助金を受けて活動が出来る

多くの高齢者が老人クラブへ参加して活動できる支援を多方面から考えていること

老人クラブ連合会に加入せず活動している地区をどう加入するかが難問

老人クラブの役員のなり手なく会の存続が危ぶまれている

共生・共存・人と自然と共存し他の人と支え合う精神が薄い

近隣と関りが薄れ、老々介護、認知症の介護、シングル介護者へのケアを必要とされている中で包括センターの理解薄い

高齢者と団塊の世代の乖離をつなぐ努力が見えない

老人クラブ運営にもう少し行政が関わって欲しい

高齢者老人クラブの事業について活動を知り、問題点を行政が理解して欲しい

高齢者と団塊の世代をつなぐ施策の提案が欲しい

多様な価値観のなかで近隣地域の中で支えあい生きることが重要と考え実感することの学び

住民自治協議会組織での位置付けをしっかりと示すこと

高齢者が心身ともに健康とは誰かに支援されるだけでなく自分も誰かの支援ができる(生きがい)

「地域で支える仕組み作り」の現状と課題分析、今後について周知されていない。

高齢者トラブル相談の場 地域

日常的な近隣関係の構築 重い課題

地域老人クラブの充実(役割)

近隣関係うすい中で友愛活動として訪問しているが家族関係の中で難しい面あり

家族のあり方 高齢者の所在不明

近所づきあいが薄れている

国

国の方針がぐらつきすぎる 高齢者医療者制度

予防

老人福祉センターにおける多種多様な講座の開設

ながのシニアライフアカデミーで学んだ人の老人クラブ加入している人が少なく、またリーダーとなる人も少ない

心と体の健康づくり、介護予防あれこれ講座の充実

認知症施設の設置。

地域で支える地域における保健指導や健康教室等の予防活動をとおし普及・啓発をする。

認知症の高齢者に対する介護が不足。

認知症、介護の予防を前提として、自己管理自己健康管理の推進策。

認知症サポーターの養成など、認知症の人に対する理解、周知に力をいれている。

認知症サポーターが今後、どんどん増えるようになっていくか。

明るく、地域作りをPRできるものはないか。テレビ番組等

高齢者虐待がある

生涯健康のための施策は？

寝たきりにならない健康づくりへの講座を市老人クラブは高齢者福祉課と共に開催している

介護と住まい

経済状況により受けたい、受けなければならない介護が受けられない人がある。

福祉の充実の必要(デイサービスの無料券等)

介護施設への待機者の調査、施設整備への計画の前倒し等、努力している。

介護施設への待機者の調査から、何が見えてきたか？

高齢者の住まう場所が多様化しているが質の担保をどうするのか。

長野市内では、貧困ビジネスの被害といったものは、報告、相談されていないか。

介護保健の認定調査の申請から、認定調査の実施、判定結果がでるまでの時間が掛かりすぎている。

高齢者が益々増加する中、介護サービスの整備が十分とは言えない。

老人ホーム等の増設や整備を計画的に推進する。

市民病院と連携した老人ホーム等の設置。

交通

「運転経歴証明書」の交付を受けていると、タクシー10%割引制度

長野市内の多くのタクシー事業者が協力している。

地域循環バスの実証運行が平成22年度事業でも、実施されている。

「運転経歴証明書」の申請期間が1ヶ月と非常に短い上、知られていない。

長野市としても、積極的にPRすべきではないか。

高齢者の交通事故防止、安心して住める社会作りにつながる。

タクシー利用も増える 地域経済活性化につながる

地域循環バス利用者の住民の交通手段の確保

おでかけバスポート事業100円バスの運行